



真宗大分

キッズサンガ活動

— 大分教区始動 —

本年度から「大分教区キッズサンガ推進委員会」が設置され、5月9日に第1回委員会が開催され、いよいよ大分教区のキッズサンガ活動が、より具体的に動き始めました。動き始めたのですが現在の委員会の構成メンバーは、本山でのアドバイザー養成研修を受けた4名のみと少人数です。そこで先日各組へご依頼いたしました、組推進サポーターの中から推進委員会委員の就任をお願いし、より多くの方のご意見をいただきながらさらなる推進を願っています。委員会として「キッズサンガとは何か」の周知徹底を目指



し、教区内全組巡回を実施しています。教区の組巡回に行かせていただき各組を回らせていただいています。その場で、ご説明させていただきます、そして貴重なご意見を生の声でちょうだいし、これからの活動に向けて大いにいかして

第126号
創刊 昭和41年8月
発行所
大分教区基幹運動
推進委員会
〒874-0920
別府市北浜3丁目6-36
本願寺別府別院内
TEL 0977-22-0146

いく所存です。なお、4月に開催された組が1組ありましたので、別の機会を設けて必ずお伺いさせていただきますと思います。

これまでの組巡回であらためて確認したポイントを

①「絵に描いた餅」ではなく、本山も本気になってやろうとしている起死回生の事業である。

②一つ一つのお寺を活性化していくことが、今、重要なこと。

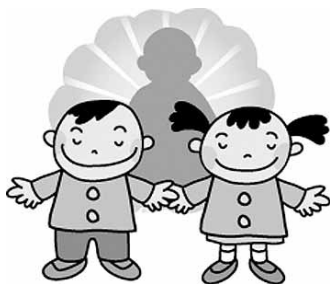
③子どもを取り巻く環境の悪化。子育て育ちが気になる時代。伝承がきかなくなつた時代。そんな子どもたちに「阿弥陀さまを伝えること」は我々の責務。



④「キッズ」は「子ども」のことだけど、「仏の子」といだけば、私たち全員が「仏の子」となる。そんな「寺をどげかせんといかん」の思いを持つてる仏の子が集まり、「お寺だからこそできる何かをみんなで考えていこう」と、子どもを中心とした何かを模索し行動していくこと

⑤一つのお寺が活性化していくことを、そのサポーターを中心とした組キッズサンガ推進委員会が、それを教区の推進委員会が、それを中央の推進委員会がサポートしていく。つまり宗門をあげて一つのお寺が活性化していくためにサポート体制を整えて活動していく、

これがキッズサンガ運動。以上の5点を踏まえて、よりいっそうキッズサンガを推進していきたいと思えます。「すべてのお寺に子どもの声を」をめざしみなさまの取り組みをよろしく願っています。



基幹運動のページ

「男女共同参画推進のために」

「男女共同参画推進のための協議会」を本年度(2009年度)、5ブロック5教区で開催することになりました。当大分教区も開催指定教区のひとつになりましたので、9月1日(火) 別府別院で開催されました。

【協議会の趣旨】

2001年に「提言書く教団の男女共同参画をすすめるために」が「男女共同参画を考える委員会」(1999から2カ年設置)により総局に答申され、その「提言書」に示された具体的項目について取り組みがすすめられました。

その成果と明らかになった課題に具体的かつ組織的に推進するため、2006年「男女共同参画推進委員会」が設置され、宗門機構内の法規の

見直しなどをすすめる、機会均等などを図ってきましたが、「男女共同参画」に向けた具体的な方策などを立て、実践するには至っていない現状です。その現状を踏まえ、具体的な活動のはじめとして、現場の教区で協議会を実施し、教区、

寺院での現状や課題を聞き取り、今後の男女共同参画推進の資料とすべく協議会が開催される運びとなりました。

【基本法施行】

1999年6月に「男女共同参画社会基本法」が公布、2000年施行されました。

基本法は、家庭生活だけでなく、議会への参画や、その他の活動においての基本的平等を理念としています。また、それに準じた責務を政府や地方自治体に求めています。2001年に内閣府に男女共同

参画局が設立され、各省庁に男女共同参画関係予算が割り当てられ関連事業や促進に関する施策としてポジティブ・アクション(積極的改善措置)が実施されています。また基本法第14条にしたがい地方自治体においても条例の策定や対策室の設置、関連事業などが実施されています。基本法制定の背景には少子化があり、関連事業等も自治体により違いはあるものの少子化を踏まえたものが企画されています。基本法により、男女の権利がより平等になったとする意見

【教区の課題】

この中央省庁、地方自治体の施策の流れから各企業・組織も基本法にしたがう行動・取り組みが当然要求され今に至っているようです。大分教区は「男女共同参画」に取り組んでいるとは言えない状況ですが、各組、各寺、門信徒が置かれている状況から、今回の協議会をきっかけにして、

基幹運動の一環としての、男女共同参画社会の実現に向けての取り組みをすすめたいと思います。

子どもと家族を応援
(社会の動き)

平成(H) 19. 4. 6

経済財政諮問会議労働市場改革
専門調査会第一次報告

○ワークライフバランス憲章の策定を
提言

■H19. 5.24

男女共同参画会議
仕事と生活の調和に関する専門調査会
『「ワーク・ライフ・バランス」推進
の基本的方向』 中間報告

■H19. 6. 1

「子どもと家族を応援する日本」
重点戦略中間報告

■H19. 7.13

仕事と生活の調和推進官民トップ会議
発足

■H19.12.18

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・
バランス)憲章」及び「仕事と生活の
調和推進のための行動指針」策定



男女共同参画

(内閣府ホームページより)

「哉の心」

各組 めぐり ⑰ 日 田 組

◇歴史の中の現状

日田組は、大分県西部に位置し平成十七年三月二十二日の平成合併において新しい日田市が誕生し人口七二、八六九人(平成二十一年四月三十日現在)になり面積も六六六km²と広くなりました。その中に、浄土真宗本願寺派の寺院が二十ヶ寺、その他の寺院を



講 話

入れると六十ヶ寺から寺院があり、すでに現在では廃寺等により無くなった寺院を考えると人口の割りに寺院数が多く、昔からご法義どころであつたことが伺われます。しかし、その内訳はさまざまに浄土真宗本願寺派と真宗大谷派が大半を占める地域であります。当地は、小京都として観光にも力を入れており、豆田町には、江戸幕府の天領時代をしのばせる古い町並みが残っています。二月三月には「天領日田おひなまつり」、五月には、日田川開き観光祭において多彩な形の火花が上がり、夢あふれる二日間の「夜空のフラワーショー」が開催されます。一六六五年に始まった日田祇園祭は毎年七月二十日過ぎの土日に開催され各地区九基の勇壮豪華な山鉾が市内

を練り歩きます。

また、かつて日田には四六〇〇人の門弟を育てた広瀬窓の私塾「咸宜園」があり高野長英・大村益次郎・上野彦馬・大隈言道などはこの門から巣立って行きました。その影響もあつたのか、昔より宗教的文化が根付いたところでもあります。

こういう中で、日田組に於ける浄土真宗本願寺派の寺院は先ほども触れたように二十ヶ寺の寺院がさまざまな問題を抱えながら、その地域に併せた活動をしておられます。過疎による人口の変動や住職継職の問題等を考えると、これからの寺院の在り方や教化活動も含め運営そのものが危惧されるところであります。しかし、その中でも、現在日田組が最も中心に行っているのが、日田組連続研修会です。昭和四十七年に始まった組連研も三十八年目を迎え、先輩達の後を受け休むことなく開催してきております。しかし、長年の開催によってマンネリ化してきていた面



話し合い

ことの難しさやいろんな課題を抱えながら進んでいるところでもあります。

◇親鸞聖人七五〇回 大遠忌法要を勤修して

本年六月二十日に日田組に於いても「七五〇回大遠忌お待ち受け法要」を組内寺院の本堂にて勤修いたしました。法要は組内住職を中心にお手伝いをいただき、讃嘆奏樂の中、組内「青年僧侶の会」の出勤により共に讃嘆いたしました。仏教婦人会「コールスジャータ」による仏教讃歌の合唱は本堂に美しく響き渡り、各寺より仏参された多数の門信徒と共に貴重な御法縁でありました。御講師は速見組満福寺の田中誠證先生をお招きし、親鸞聖人の遺徳を偲び、共にかきかされている慶びをお聞かせいただきました。また、悲哉・慶哉・誠哉とみ教えをいただいで力強く歩まれた聖人の人生を仰ぎながら、僧侶として一心することであります。

教区寺族 婦人会連盟 研修旅行



本願寺小樽別院

四年に一度巡ってくる連盟の研修旅行が、六月三十日・七月一日・二日、二泊三日の日程で参加者四十三名北海道に行きました。フライトの日は大分北部は大変な雨の日でした。福岡空港から約二時間。北の大地は緑の美しい開放感一杯。最初の目的地、小樽別院に参拝。ご輪番より別院の沿革について説明を受けました。北海道開拓開教当時はどんなに困難を極めたことか・・・木造の大きな伽藍に圧倒。

参拝後は、ガラス工芸館など散策とニシン御殿観光に別れ、ニシンが大漁当時に贅を満載のまさに御殿。時間に限りがあり駆け抜けるのがやっとなりました。その後当夜の宿泊定山溪までバスは走りました。森の中の温泉、秋ならどんなにか美しいだろう。宴会で自己紹介はあつたものの顔と名前は一致しない。私だけ？二日目、楽しみにしていた待望の旭山動物園。閉園に追い込まれた園を、動物に優しく自然体系に近い園舎にしての成功例。こどもの数は疎ら、次々やって来るバスの中から園舎をめざす人は、かなりの年配者。全種類を巡るには時間が足りない、次の目的地美瑛とラベンダーの畑に移動。高速道をひた走るバスの車窓から緑の田園にカラフルな屋根、遠く残雪の大雪山系がどこまでも続く。厳しい寒さに耐え芽吹いた春と夏の美しさも、間近く秋から冬がやってくることを知っているかに見えた。札幌に帰り最後の夜はジーンギスカンで満腹。折角の札幌、夜薄野に出かけた人も多かった様子。



本願寺札幌別院

三日目、まずは札幌別院に参拝。薄野別院と親しまれていたが、札幌が著しく発展盛り場と化し、伝道環境に好ましくなく、教化事業を興すには狭少すぎることから現在地に移転となった。北海道の開教開拓はどれほどの時間がかかり、門信徒の熱意があつたことか計り知れませんが、他に帯広・函館・江差別院があります。山林・原野の開拓に多くの屯田兵や服役中の人の労力があつたればこそ、北海道の発展があることも忘れられないことだと思えました。お土産満載・笑顔で帰路に。楽しい意義ある研修にご協力頂いたみなさまに感謝いたします。

およろこび記事

【住職就任】

森部 博 司

日田組 浄徳寺

(平21・4・22就任)

羽多 義 昭

岡組 明信寺

(平21・6・11就任)

村上 正 典

大野組 乗蓮寺

(平21・7・1就任)

おくやみ

次の方々がご逝去されましたので、生前のご苦労を偲び謹んで敬弔の意を表します。

○松本 美恵(平21・6・4)

由布院組 明蓮寺 前坊守

○松琴 光枝(平21・6・5)

国東中組 安楽寺 前坊守

○松丸 岸生(平21・8・23)

臼佐組 浄元寺 住 職

編集後記

婦命無量寿如来

南無不可思議光：

お経の音が、かつては朝夕各家庭から聞こえたものでした。

「最近、あまり聞こえないね」「お念仏も法要でも参詣者から聞こえないね」などと、愚痴るのが僧侶の言わば、癖みたいになっていて感があります。あまりいいことではないとわかつてはいるのですが、つい、出てしまうのです。

親鸞聖人ゆかりの稲田草庵でのお朝事に参詣し、すがすがしい思いを抱いたのが印象的でした。それがご縁で参詣した僧侶で「お朝事の会をしようではないか」と話が進み、現在四か寺で毎月順番に、調声、法話、ご文章と、仏徳讃嘆の営みを継続しております。開始の一年目は僧侶だけでしたが、最近総代さんや寺院近くの門信徒にご案内しております。

かつてのように、お正信偈やお念仏の音が、聞こえてくることを願いつつ、ささやかですが活動を続けていくつもりです。